

デジタル ポッシブル

BTジャパン株式会社代表取締役社長
日本経済団体連合会審議員会副議長
規制改革推進会議委員

よしだ 吉田
はるの 晴乃



1990年代にカナダで通信会社に勤務して以来、女性の少ないテクノロジー分野でトップセールスとして活躍。4カ国、5社のICT企業に従事、2012年1月より現職。15年6月、経団連 審議員会副議長に史上初の女性として就任。グローバルな視点と働く母親としての経験から、女性管理職の新しいロールモデルとして注目されている。16年9月、規制改革推進会議の委員にも選出された。

二五年前にICT産業に出会い、この業界に育まれ、今に至る。この新しい市場がなければ、そしてこの産業がもたらしたイノベーションなくしては、女性として今の地位を築くことはできなかったと思う。私の人生に起きた「Digital Possible」—デジタルが成しえた奇跡を二つ話したい。

一つはこのイノベーションがもたらした働き方革命である。私は自己紹介をするとき、四足の草鞋をはくタコです、と言っている。まずは愛娘の母としての草鞋。私の人生の基軸となる一足目。二足目はBTジャパン代表取締役社長という経営者としての草鞋。三足目は二〇一五年に任命いただいた経団連初の女性役員という重責。四足目は二〇一六年に内閣総理大臣より拝命した規制改革推進会議メンバーとしての仕事。

グローバル市場で働くママが海外出張を繰り返し、経営者として業績を上げつつ、二つの公務に携わる。まさに生産性四〇〇%状態だ。これを可能にしているのが、いつでもどこでも仕事ができるICTイノベーション。テレワークである。三〇年前には考えられなかった生産

性革命的働き方だ。

そしてもう一つの Digital Possible は私のキャリアそのものである。新しい産業だっただけに、成功の定義というものがなかった。アイデアで顧客を惹きつけ、市場を創ることができた。そしてビジネスであるが故に、明確な数字をもって成果を示すことができた。グローバル市場でもビジネスの普遍的指数である数字は国を越え評価された。結果、四カ国、五つの企業でキャリアを築くことができた。その当時の女性であつても、だ。

第四次産業革命というすべてがデジタル化される社会にあり、自己の経験から、女性をはじめとする多様な人材の自己実現が可能となった時代を確信している。

技術革新による、人間のあらたな生き方だ。BTは一七〇年の歴史をもつ世界最古の通信会社である。イギリス人のグラハム・ベルが、かつて貴族の、遠方のオーケストラの音楽を今ここで聞きたい、という贅沢な要望をかなえるために電話という文明の利器を発明。この電話機を最初に商用化したのがブリティッシュテレコムである。

以来、世界一九二カ国で人々の生き方

革命のため一七〇年間にわたりイノベーションを提供している。

私がBT日本法人社長としてライフミッシンだと思っているのが、日本の女性たちの生き方改革。

ワークライフバランスをとれなかった時代、シングルマザーとして娘に悲しい思いをさせた二〇余年の懺悔の思いを込め、最高に贅沢な女性の新しい「生」を、イノベーションをもって実現させたい。

娘の時代にはすばらしい家庭も輝かしいキャリアも、趣味も、欲しいものすべてを享受できる。そんな時代に心からなつてほしいと思うからだ。

ママがうらやましいと思うぐらい欲張りに生きて頂戴。あれも欲しい、これも欲しいと願って頂戴。必要は発明の母なり。人間の飽くなき欲求、進化意欲が時代のグラハム・ベルを育て、イノベーションを生み、それが第四次産業革命になるのだから。だから私もタコ足に満足せず、イカ足、いやムカデめざしてまだまだフロントを走っていきこうと思っている。Digital Possible、私の人生の「軌跡」が、娘の、そして女性たちの輝かしい人生の「奇跡」を確信させてくれる。

◇R

次号は、クオナムリープ(株)代表取締役の出井伸之氏にお願いいたします。

※本コーナーは、弊会ホームページでもご覧いただけます。